

ヨハネスブルグ日本人学校の皆さん、これからご入学を検討される皆さんへ

2001年卒業生 関澤久美

ヨハネスブルグ日本人学校卒業生の関澤久美です。私は1997年に小学校6年生で東京から日本人学校に転校し、2001年3月に中学部を卒業しました。

日本人学校は日本の質の高い教育を少人数で受けることができ、英語教育も充実していて、とても良い学校でした。そして何より、友達や先生方との思い出がたくさんできました。

運動会や泊まりがけの野外学習、学習発表会、日本人会のお祭り、クリスマスパーティなど、どれも今でも昨日のこのように鮮やかな記憶として、私の中に残っています。

日々の授業も、先生方がお手製の教材を準備してくださったり、クラスみんなで知恵を出し合ったりして、毎日がとても楽しみだったことを思い出します。

今でもその頃の友達や担任の先生とは交流があり、皆で集まったり、LINEで情報共有したり、楽しく過ごしています。

2019年5月には、18年ぶりに南アフリカに旅行し、日本人学校の皆さんの前で現在の仕事などについて講演させて頂く機会もありました。昔と全く変わらない風景に、皆さんの輝く笑顔を見ながら思い出話などもさせて頂き、私にとっても大変貴重な機会となりました。後日、丁寧に書かれたお礼のお手紙やお写真まで頂き、子どもたちが将来に胸を膨らませて一生懸命励む姿に私自身も励まされました。

私が、日本人学校にいた頃、先生方や保護者の方に、「君たちは小さな外交官だよ」とよく言われていました。どんなに日本から遠く離れていても、どんなに小さくても、日本人として誇りをもって責任のある行動を取りなさい、という思いが込められた言葉でした。

日本人学校に通っていると、家族ぐるみの付き合いが多いですから、皆のお父さんやお母さんの仕事をみて、世界で働く日本の大人はカッコいいな、とよく思ったものです。

世界で働く日本のビジネスパーソンを応援したい、という思いが高じて、私は今、経済産業省の職員になりました。

日本経済が勢いよく回る仕組みを作り、海外に進出する日本企業の活動を後押しするのが、経済産業省の仕事です。

私が現在いる技術・人材協力課では、途上国に進出したい日本企業をサポートしています。政府開発援助（ODA）の予算を使って、途上国の産業人材育成をすることで、現地の産業発展を助け、日本企業の皆さんが進出しやすい環境を整備する仕事です。

私は、エチオピアやケニアの案件を担当し、例えば、エチオピアでは、縫製業の支援を実施しています。エチオピアの人口は1億人程度と日本とほぼ同じくらいで、若者がとても多く、急速な経済成長を遂げている国です。エチ

オピア政府の縫製業発展のための政策にアドバイスしたり、日本から専門家を派遣したりして、ミシンなどの使い方のみならず、品質管理やマネジメント指導などについても協力しています。

こうした取り組みを通じて、エチオピアの人々が将来的には自立して、益々経済発展することで、日本企業とのビジネスが盛り上がっていくことを願うばかりです。

日本人学校にいた頃、毎日が希望や夢に溢れていたように思います。南アでの生活を通じて、日本人学校の生徒の皆さんが、どんな素敵な夢を抱き、世界でご活躍されるかを想像すると、楽しくて仕方ありません。

足下では、新型コロナウイルスの感染拡大により、日本をはじめ世界中で厳しい状況が続いていますが、辛いことや厳しいことがあっても、私もその頃の純粋な気持ちを忘れないでいようと思います。

これからヨハネスブルグ日本人学校へご入学を検討されるお子様や保護者の方におかれましても、一人の卒業生として全力でオススメ致しますので、ぜひ門を叩いて頂ければと思います。

2021年9月29日

経済産業省 貿易経済協力局 技術・人材協力課

課長補佐 関澤久美

経歴：2001年3月ヨハネスブルグ日本人学校中学部卒業。同年4月東京都立小石川高等学校入学。  
2004年4月津田塾大学（交換留学で英国エジンバラ大学に留学）を経て、2008年4月東京大学公共政策大学院入学。2011年4月みずほ証券株式会社入社、2015年4月より経済産業省にて勤務。